



CSRLレポート 2014

Corporate
Social
Responsibility
REPORT

Contents

■ 会社概要	02
■ トップメッセージ	03
■ 社会の中のニチアスグループ	05
特集 住まいと暮らしに新しい価値を創造する ニチアスの住宅用ロックウール	07
TOPICS 事業継続計画 (BCP) への取り組み	11
■ CSR活動への取り組み	12
■ コーポレートガバナンス	13
■ お客さまとのつながり	14
■ 株主・お取引先とのつながり	15
■ 従業員とのつながり	16
■ 地域社会とのつながり	17
■ 社会とのつながり	19
■ 環境への取り組み	20
■ 環境マネジメント	21
■ 環境パフォーマンス	23
■ 環境TOPICS	25

編集方針

ニチアスグループは、2004年度から「環境報告書」を発行してまいりましたが、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーの皆さまのご理解を深めることを目的に、2013年度よりCSR (Corporate Social Responsibility) レポートとして発行しています。

本レポートでは特集として、当社グループの住宅用ロックウール断熱材事業における省エネルギーへの取り組みを取り上げています。

なお、本レポートの作成にあたり、「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」および「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」(環境省)を参考にしています。

報告範囲

ニチアス株式会社を中心に、下記項目を除きニチアスグループ全体について報告しています。

・「従業員とのつながり」(P16)の実績データはニチアス株式会社単体を対象としています。

・「環境への取り組み」(P20～26)は、プラント向け販売・工事事業および建材事業の工事部門の施工に関するデータを除いております。

・「環境パフォーマンス」(P23、24)は当社製造工場^{注1}、国内連結製造子会社^{注2}を対象としています。

注1: 鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場
注2: ニチアスセラテック株式会社、株式会社堺ニチアス、国分工業株式会社、竜田工業株式会社、大田化成株式会社、株式会社福島ニチアス、メタコート工業株式会社

報告期間

2013年4月1日～2014年3月31日

次回発行予定

2015年8月

将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果などについては異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまにはあらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。

※本冊子中の製品名・サービス名はニチアス(株)の登録商標または商標です。

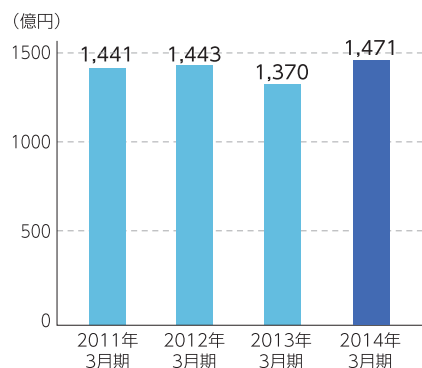
会社概要

「断つ・保つ」の技術で地球の明るい未来に貢献します。

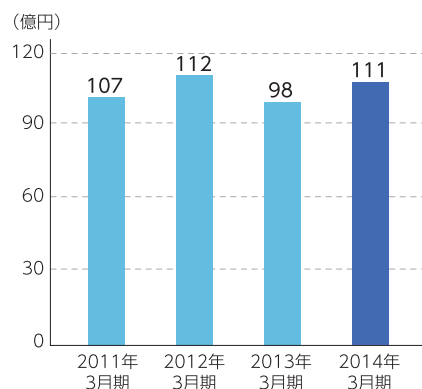
会社概要

商号 ニチアス株式会社
 NICHIAS Corporation
設立 1896年(明治29年)4月9日
資本金 92億8,357万202円
 (2014年3月31日現在)
代表者 代表取締役社長 武井 俊之
従業員 連結:4,813名/単独:1,590名
 (2014年3月31日現在)
本社 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

売上高推移(連結)

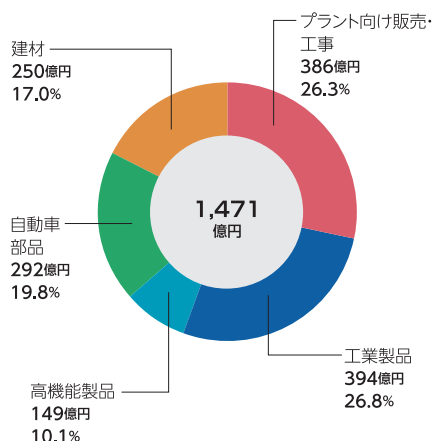


経常利益推移(連結)



事業分野

事業分野別売上高比率(2014年3月期)



プラント向け販売・工事業

極低温から超高温に至る領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



シール材

保冷工事

建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに貢献しています。



不燃内装材

住宅用断熱材

工業製品事業

装置機器、環境、食品、医療、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックウール断熱材

うず巻形ガスケット

自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品や技術を提供しています。



シリンダーヘッドガスケット

防音カバー

高機能製品事業

技術革新の早いエレクトロニクス関連産業分野の中で、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスに関わる先進の部品や部材を提供しています。



ふっ素樹脂製チューブ

配管加熱・保温ヒーター



代表取締役社長

武井俊之

ニチアスグループは企業の社会的責任を果たし、 ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えすることで 持続可能な社会の実現を目指します。

2014年6月27日付で代表取締役社長に就任いたしました武井俊之です。

当社は1896年(明治29年)、我が国における保温・断熱分野のパイオニアとしてスタートし、以来118年間、我が国の発展とあゆみとともにしながら、さまざまな産業分野へ、当社グループの基盤技術である「断つ・保つ」技術を軸とした製品とサービスを提供してまいりました。

当社グループの企業理念である「ニチアス理念」は、「『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献する」ことを謳っています。これは、当社グループが極低温から超高温まで、液体・気体をはじめとするさまざまな対象物に対して、漏れ・熱・音・腐食などを「断つ」機能や、熱・クリーンを「保つ」機能をもった製品・サービスを幅広く提供することで、継続的に社会へ貢献していくことを表明したものです。

当社グループのCSR活動は企業理念の実現そのものであり、当社はその事業活動を通して持続可能な社会の実現に寄与し、お客さま、株主・投資家の皆さま、社会の皆さまをはじめとするステークホルダーの皆さまからの信頼と期待にお応えする企業であり続けることをめざしています。

また、当社グループは企業の社会的責任を果たすべく「お客様から信頼され、誇りを持って働ける会社」という経営ビジョンを掲げ、以下の重要課題を進めています。

- ・コンプライアンスの厳守
- ・企業価値の向上とステークホルダーのみなさまとの価値の共有
- ・グローバルな事業運営の推進
- ・明日を担う人材の育成と登用
- ・リスクマネジメントの強化

これらをはじめとする諸課題にどのように取り組んできたかを、当「CSRレポート」によって、ステークホルダーの皆さまに広くご報告することで、皆さまとのコミュニケーションの一助になればと考えております。

今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

ニチアスグループは「断つ・保つ」の技術でさまざまな産業の発展に貢献しています。

半導体製造工場



薬液移送用チューブ
ナフロン®PFA-HGチューブ
 高純度の薬液・ガスの移送に使用されるチューブです。

住宅



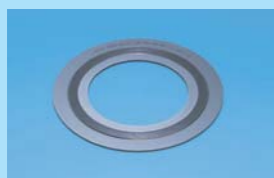
住宅用断熱材
ホームマットNEO®
 住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材です。

ビル

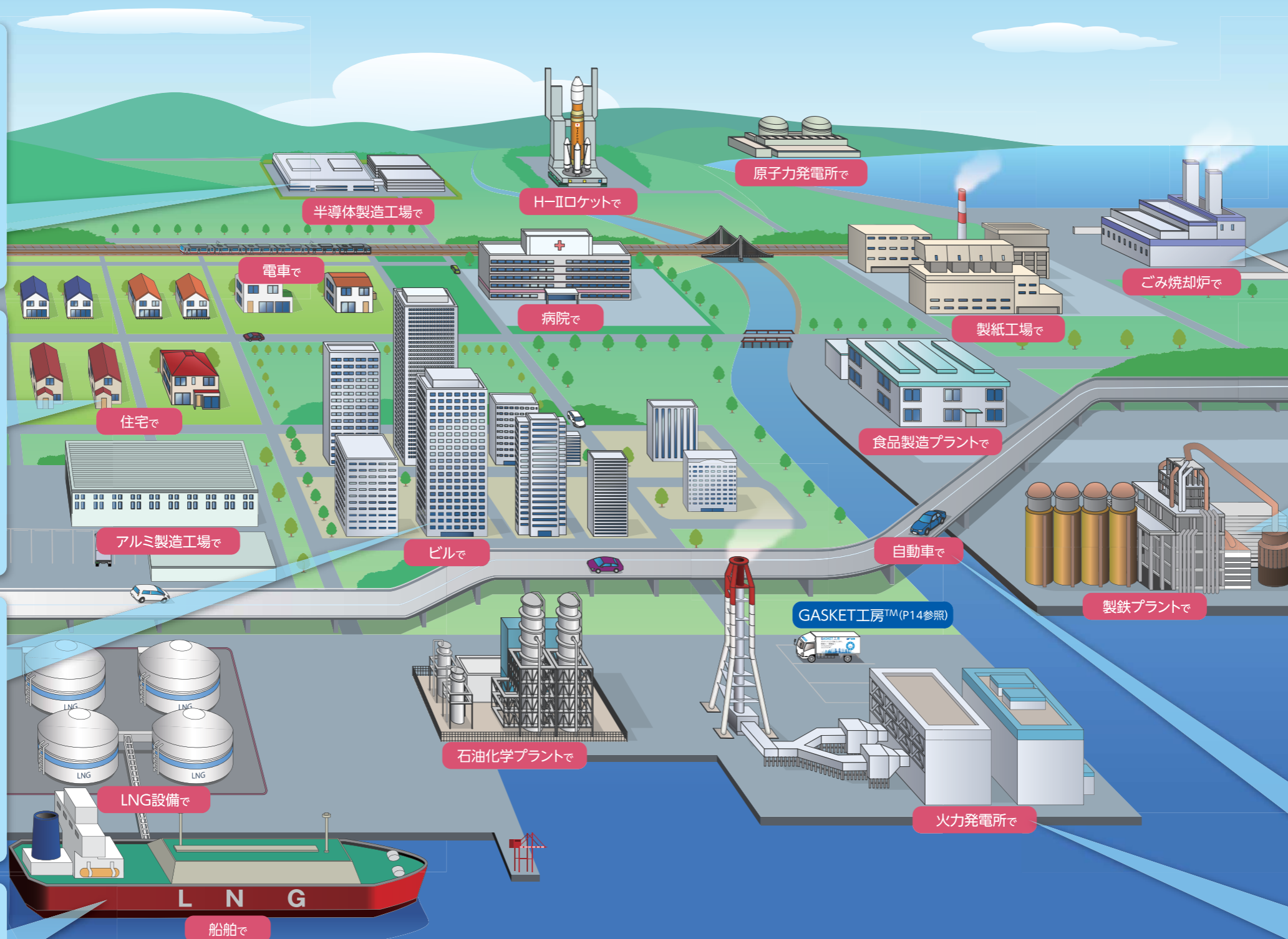


巻き付け耐火被覆材
マキベエ®
 鉄骨構造ビルの梁や柱に使用される耐火被覆材です。

船舶



うず巻形ガスケット
グラシール®ボルテックス®ガスケット
 エンジンやボイラーなどの機器や配管で使用されるシール材です。

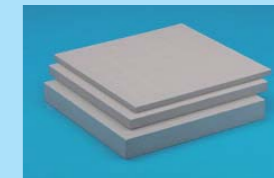


ごみ焼却炉



非金属製伸縮継手
NAペロー-Q®
 各種配管やダクトなどの煙風道に使用される非金属製伸縮継手です。

製鉄プラント



高耐熱断熱材
ロスリム®ボード
 高温の工業炉などで使用される断熱材です。

自動車



超軽量防音カバー
エアトーン®
 エンジンカバーなどに使用される防音カバーです。

火力発電所



汎用ジョイントシート
クリンシル®ブラウン
 配管のフランジ・バルブなどに使用されるシール材です。

「断つ・保つ」の6つの技術



シール技術



断熱技術



防音技術



耐火技術



耐食技術



クリーン技術

住まいと暮らしに 新しい価値を創造する ニチアスの住宅用ロックウール

現在、地球温暖化の大きな要因のひとつとして問題になっている温室効果ガスは、その総排出量の9割以上をエネルギー消費に伴うCO₂が占めています。排出量内訳では「産業部門」が最多で、「民生部門(オフィス・店舗などの業務部門と家庭部門)」がこれに続いています。「産業部門」のCO₂排出量は各企業の削減努力によって減少していますが、「民生部門」は、30%を超える増加率で、なかでも家庭部門における省エネルギーは急務の課題となっています。

ニチアスは、家庭部門における省エネルギーを実現する住宅用ロックウール断熱材「ホームマット®」を1965年に開発。以来順調に販売量を増やしてきました。そして2013年にホームマットの新工場を千葉県君津市に増設いたしました。この工場では製造時に排出するCO₂の量を従来の半分以上に削減し、環境面にも配慮したものづくりを行っています。今回は当社の住宅用ロックウール事業にスポットをあて皆さまにご報告いたします。



住宅用ロックウール断熱材
「ホームマット®」

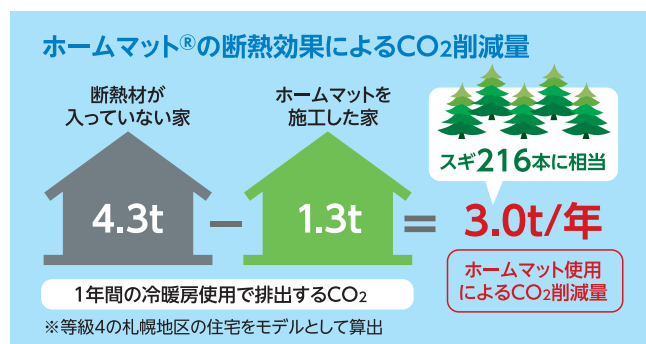


住宅の省エネ性能を高める断熱材

政府は家庭部門の省エネ促進に向け2020年までにすべての新築住宅・建築物に「次世代省エネルギー基準への適合を段階的に義務化する」方針を打ち出しました。その促進策の一環として2013年に「省エネ法」を改正し、住宅用断熱材にも「トップランナー制度※を適用する」ことなどが盛り込まれました。これらのことにより、断熱材の高性能化と厚手化が求められることとなります。

断熱材は室内外の熱の移動を抑えます。それにより夏場は室内の温度上昇を抑え、冬場は室内の温度低下を防ぎます。冷暖房によるエネルギー消費量を小さくし、家庭部門の省エネ化促進に大いに役立ちます。断熱材に対する期待はますます高まっています。

※トップランナー制度⇒省エネ性能が最も優れた製品を基準にすることで、他の製品の省エネ性能向上を図る制度。従来はエネルギー消費機器に採用されていた。



社会の要望に応える住宅用断熱材「ホームマット®」

当社は1965年にロックウールを用いた住宅用断熱材「ホームマット®」を開発しました。この製品の特長は、断熱性能に起因する省エネ性はもちろん、耐久性、防音性、さらには湿気に強いことによる耐水性、耐火・耐熱性、健康面でも安心といった環境にやさしく安全で安心な製品という点にあります。開発以来約50年間、「ホームマット®」は数多くの住宅に施工されてきました。

一方、地球規模の温暖化問題への対応を図るため、国はさまざまな省エネ化推進政策を実施しています。また2011年の東日本大震災以降の節電意識の向上により、住宅の省エネ化への関心も急速に高まっています。

そのようななかで当社は、2013年に次世代省エネ基準に対応した住宅用ロックウール断熱材「ホームマットNEO®」を発売しました。



お客様の声

高断熱性能に柔軟に対応した製品の供給を期待します。

当社ではロックウール断熱材を約40年前から採用しています。ロックウール断熱材は断熱・耐火性能の高さはもちろん、グラスウール断熱材に比べ耐水性が高いこと、また開口部などが多い壁に対し形状の自由度が高いことが採用の理由です。当社はより快適な住まいをご提供するため、標準外壁構造体を従来より壁厚が約1.6倍となる6インチウォールとし、より断熱性能の高い140mm厚のロックウールを充填しています。今後も高断熱性能に柔軟に対応した製品の開発と安定供給を期待しています。



三井ホーム(株)
調達企画部 部長
高田 理彦 さま

拡販推進担当者の声

お客さま企業や一般消費者への認知の拡がり、需要の拡大を肌で感じます。

当社の住宅用ロックウール断熱材「ホームマット」は、住まいの冷暖房効率を上げ、住宅からのCO₂排出量削減に貢献できる製品です。国が実施している住宅の省エネ推進政策は、当社にとってもビジネスチャンスであると考えています。住宅・建設関連のお客さまをはじめ、施主など一般消費者への認知も拡がりつつあり、需要の拡大をひしひしと感じているところです。当社は千葉県に新工場を竣工し、需要にお応えする体制も整いました。今後は製品の機能や安全性をより積極的にお伝えし、安全で安心な製品を提供することで、これまで以上に世の中に役立っていきたくと考えています。



建材事業本部
ホームマット拡販推進室 室長
菅原 公平

需要の増加に応じて生産能力を増強

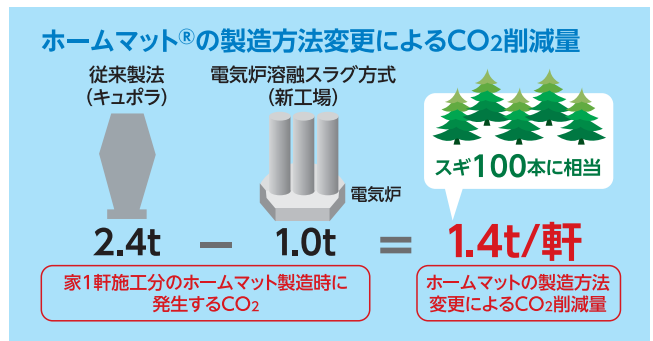
当社グループは、住宅用ロックウール断熱材「ホームマット®」の需要の増加・多様化に応えるため、2013年10月、千葉県君津市に新工場を増設しました。この新工場の建設により、住宅用ロックウール断熱材の生産能力を従来の約3倍に増強し、需要が拡大する住宅用断熱材を今後も安定的に供給していきます。



千葉県君津市の新工場

製造工場も環境負荷低減を実現

新工場は新日鐵住金(株)の君津製鉄所構内にあります。新工場では、製鉄工程の副産物である熔融スラグを活用することで、従来のキュボラによるスラグ熔融に要していたエネルギーが節減できるため、CO₂の排出量を約6割削減するなど、環境負荷低減を実現しています。



事業推進担当者の声

製造段階のエネルギーロスを抑え、環境に配慮した生産を実現します。

新工場の大きな特徴のひとつは、製鉄所の熔融スラグをそのまま活用するため、加熱によるエネルギーを少なくできる点にあります。これをCO₂に換算した場合、従来の約40%に抑えられます。同時に、大消費地である首都圏にあるため、工場から消費地への輸送エネルギーの抑制にも貢献できます。製造においては、新導入の最新設備により、繊維化効率や歩留まりを向上し、製造段階でのエネルギーロスも抑え、さらに、製造段階で使用した水や、製品をカットした未使用部分のリサイクルを実現するなど、あらゆる面から環境に配慮しています。



技術本部
ロックウール事業推進室 室長
福島 康典

ロックウールは工場生産される人造の鉱物繊維

ロックウールは、耐熱性に優れた高炉スラグや玄武岩、その他の天然岩石などを主原料に、キュボラや電気炉で1,500～1,600℃の高温で溶融し、遠心力などで吹き飛ばして繊維状にした人造鉱物繊維です。



1



2

製鉄所から出た溶融スラグを溶さい鍋に移し、当社工場内へ搬入します。



3

電気炉で溶融したスラグを製綿ロータで繊維化します。



3



7



7

自動梱包された製品は倉庫へ搬入され、出荷を待ちます。

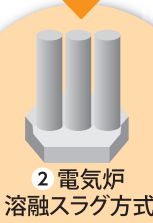
ホームマット®完成までの流れ

新工場の工程

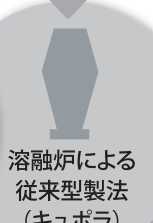
従来の工程

1 溶融スラグ

除冷スラグ



2 電気炉
溶融スラグ方式



溶融炉による
従来型製法
(キュボラ)



3 繊維化

4 集綿



5 配綿
(ペンジュラム方式)

6 成形加工



7



4~5



6

繊維化した素材を何層にも重ね厚みをつけ、成形後規定の大きさにカットします。



6



6

カットした素材を成形加工し、検品を行います。

事業継続計画 (BCP) への取り組み

ニチアスグループの製品には、お客さまにとって「なくてはならない製品」が数多くあるため、「製品の供給責任」を果たすことが最も重要だと考えています。くわえて、事業活動を支える「グループ従業員の安全確保」も重要であり、この2点を当社グループのBCP対策の基本課題として、各種対策に取り組んでいます。

製品の供給責任

当社グループは、災害発生時に製品供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性などを勘案し、対策が必要な製品の優先順位をつけ、対策を確実に実施することで、製品供給の確保に努めています。

従業員の安全確保

災害の発生時、企業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。当社グループは災害発生に備えた防災訓練の実施や啓発活動、教育、従業員の安否確認の迅速化、防災性の高い建物への変更、防災用具・非常食の備品整備など、従業員の安全確保への取り組みを進めています。

■ 製造拠点の分散化

当社グループの国内外の製造拠点ネットワークを活用し、一拠点でのみ製造している製品については海外を含めた製造拠点の分散化を図っています。複数拠点での製造により、災害などの影響を受けた拠点を速やかにバックアップできるよう、安定供給体制を構築しています。

■ 原材料調達の複数化

種類や入手先が限られる原材料については複数化を進めています。新たな原材料の選定を行い、それらを原材料とした製造条件、製品特性の把握・確認を実施し、現状品との置き換えに問題がないことを確認したうえで使用原材料の複数化を実施しています。同時に、購入ルートの複数化も進めています。

■ 原材料・製品在庫の確保

災害発生などにより、調達に支障が生じると予想される原材料については、在庫の積み増しを実施しています。また、製品については、半製品を含めた在庫量を見直し、製造が停止してしまった場合の影響を最小限にするよう図っています。営業拠点においても、製品在庫量を見直し、物流停止への対策を講じています。

■ 装置・備品の地震対策

地震によって製造設備のズレ・ゆがみが発生した場合、その後の確認・調整作業のため、製造再開までに時間を要する懸念があります。これらの対象設備は固定方法の見直しや補強を実施しています。また、資材棚などの倒壊防止対策も講じ、地震発生時の被害の最小化に努めています。



■ 2013年7月、本社を移転

2013年7月に東京都港区芝大門から中央区八丁堀へ本社を移転しました。耐震性、非常時の電源確保への対策が強化されたビルに移転することにより災害に対する備えを強化しました。災害発生時における従業員の安全を確保し、事業活動継続につなげていきます。

■ 従業員安否確認システムの導入

災害発生時に、従業員が携帯電話のメール機能を使って会社へ安否報告する安否確認システムを導入しています。災害発生時の使用に支障をきたさないように、定期的な運用訓練を実施しています。

■ 羽島工場管理棟の建て替え

2013年5月に岐阜県にある羽島工場の管理棟を耐震性に優れた建屋に建て替えました。災害発生時の従業員の安全を確保し、生産活動の継続につなげていきます。

■ 拠点における災害への備蓄品の整備

当社では、拠点ごとに災害発生時に3分の2の従業員が3日間生活できる食料と水を備蓄し、防災用具を整備しています。今後は、当社グループ全体へ展開できるよう整備を進めています。

CSR活動への取り組み

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、従業員とのつながりはもとより、社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切にし、さらにより良い関係の構築をめざしたCSR活動に取り組んでいます。



コーポレートガバナンス

ニチアスグループは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、企業価値を長期にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。

コーポレートガバナンス

企業価値の向上は、公正な企業活動による社会的使命を果たし、ステークホルダーの皆さまの信頼と支持を得て初めて可能であり、コーポレートガバナンスの充実はそのための体制づくりの基本的な命題であると当社は位置付けています。

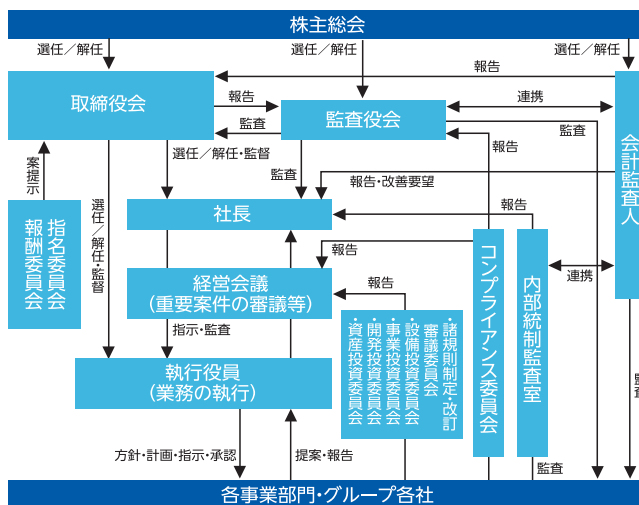
当社の取締役会は、経営上の意思決定を迅速に行うため、当社事業に精通した取締役で構成しています。2013年度は合計14回開催しました。このほか、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議する経営会議を原則毎週開催することで、より適切な経営判断および業務執行が可能となる体制を構築しています。

また、当社の監査役会は経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、それぞれ専門分野をもった、社外監査役と常勤監査役によって構成されており、経営に対する積極的な意見表明を行っています。

また、内部統制については内部統制監査室が当社グループの

内部監査を計画的に実施しています。

当社はこれらの体制を構築することにより、経営の透明性、公正性、効率性を高めています。

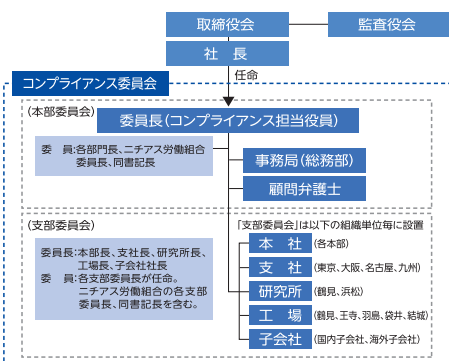


コンプライアンス活動

当社は、企業経営を行う上で、また社会の中で活動する一員として、多くのステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築できるよう、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいます。

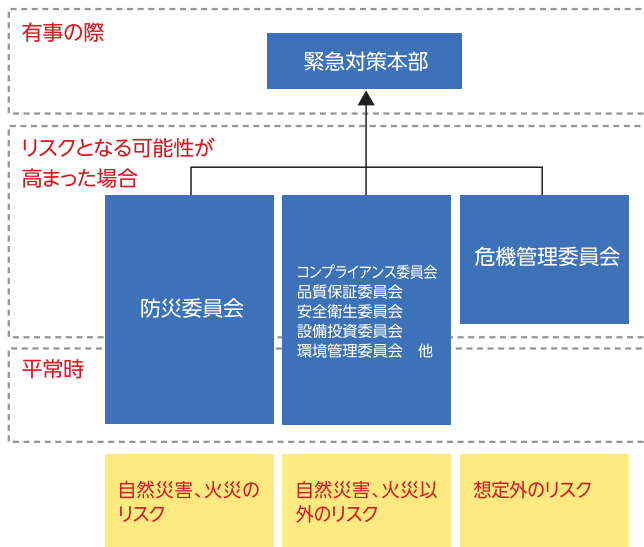
活動の基盤は、毎月開催されるコンプライアンス本部委員会と3か月に一度開催される事業場ごとのコンプライアンス支部委員会にあり、コンプライアンス違反につながりかねない行為の根絶を図っています。2013年度は全従業員を対象とした無記名アンケートを実施しました。また、階層別研修などを通じた教育や、通報窓口としてのコンプライアンスカウンターの啓発

ポスターを掲示するなど、従業員の意識向上、通報者が情報提供しやすい開かれた体制づくりを積極的に推進しています。



リスクマネジメント体制

「断つ・保つ」の技術を基盤とした製品・サービスを安定供給することを社会的使命とし、リスクマネジメントの実践を通じて事業の存続・安定的発展を確保しています。経営上の重大リスクに直面した際には、緊急対策本部を設置し、全社一丸で即応できる体制を整えています。



お客さまとのつながり

ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・工法の提供を推進しています。



安全・安心な製品の提供

● 品質への取り組み

日々の品質管理はもちろんのこと、クレームの未然防止にも積極的に取り組んでいます。特に人命に関わる事故や環境汚染につながる危険性のある不具合などの重大クレームを引き起こす可能性のある製品および工程を洗い出し、その工程での品質づくり込みの条件、作業手順、管理方法の妥当性の確認と見直しを行い、不具合発生を未然に防止する活動を進めています。

● マネジメントシステム体制

1996年に羽島工場がISO9002(当時)を取得したのをはじめに、各製造事業場で品質マネジメントシステムの構築を進め、現在は国内外の製造工場や製造子会社など多数の事業場にて認証を取得しています。

製品設計・製造・施工・引渡しにいたるそれぞれの活動において品質を確保し、お客さまに信頼される製品・工法・サービスの提供に最善を尽くしています。

● PL(製造物責任)への取り組み

製造物の欠陥によってお客さまの生命・財産に損害を与えることはあってはならないことです。当社では各事業本部を横断的に取りまとめるPL委員会を設置し、それを未然に防止することに取り組んでいます。ここでは製品設計時・製品製造時

従業員同士で品質の向上を目指した「みんなの勉強会」を主催／羽島工場

品質管理課では、製品の品質を守るためのルールづくりと製品の検査で品質の確認を行っています。「みんなの勉強会」の講義や実習を通じて、製造部門にもこれまで以上に品質について関心をもってもらい、不具合の低減(=品質の向上)につなげています。



羽島工場
品質管理課 課長
鳥居 信宏

「みんなの勉強会」のようす

にPLを順守するための仕組みづくりや、製品の梱包における適切な表示内容の決定など、お客さまに当社グループの製品・サービスを安全・安心にお使いいただくためのさまざまな活動を行っています。

お客さまのニーズに合わせた製品・サービスの提供

● ガスケットNAVI™

プラント配管継ぎ手などのシール材として使用されるガスケットにはさまざまな種類があり、その選定と取り付けには専門的な知識が要求されます。2013年12月に公開したアプリケーションソフト「ガスケットNAVI」は、これらに必要な情報をパソコンやスマートフォンで簡単に検索・算出することができ、お客さまのお役に立てていただいています。

「ガスケットNAVI」/
<http://seal.nichias.co.jp/>



● GASKET工房™

化学プラント工場などの定期修理現場では、当社のガスケット加工品が緊急で必要になることがあります。2014年5月より稼動した移動式ガスケット加工設備「GASKET工房」をお客さまの現場に常駐させることで、お客さまの緊急のご要望にお応えすることが可能になりました。



GASKET工房

株主・お取引先とのつながり

ニチアグループは、透明性、公正性、効率性を重視した経営を行うとともに、財務情報については、迅速かつ適切に開示しています。
また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引を行っています。



株主・投資家とのコミュニケーション

● IR活動

当社は、積極的なIR活動によって、情報開示の充実と迅速化を進める一方、投資家の皆さまとの活発なコミュニケーションを図っています。例えば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会を年2回開催しているほか、工場見学の開催や日常的な面談やミーティングも行っています。2013年度は2回のスモールミーティングと延べ135件の個別ミーティングを行いました。皆さまからいただいたご意見は、経営の参考にするとともに、社内で共有し、業績向上に役立てています。

● IRサイトの充実

2014年5月に自社ホームページのIRサイトをリニューアルしました。同サイトでは、決算資料の迅速な提供や業績ハイライトの閲覧が可能になったほか、英文IRサイトの充実も図りました。また、株主・投資家の皆さまに当社をより知っていただけるページも用意しています。

今後も国内外の株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを充実させ、幅広い株主層の形成に努めてまいります。



リニューアルしたIRサイト

お取引先とのコミュニケーション

● 公正な評価による取引先の選定

当社の事業活動は、多くのお取引先に支えられています。そこで当社では、お取引先の方々に公平な競争機会を提供しています。各お取引先について、製品・サービスの品質や供給能力、財務状況、環境への配慮などを公平に評価し、取引先の選定を行っています。

● グリーン調達基準の制定

当社グループは、「環境に配慮したものづくり」をキーワードに、研究開発から原材料調達、製造、流通、消費、廃棄などの各段階における環境負担が小さい環境配慮型製品の開発に取り組んでいます。その一環として2005年4月に「グリーン調達ガイドライン」を制定しました。ガイドラインでは、当社グループで使用を禁止している環境負荷物質、および使用状況の把握が必要な環境負荷物質を選定し、新規に採用する原材料の事前チェックを行うことを定めています。環境負荷物質は規制の強化とともに年々追加されていますので、定期的に基準の見直しを行っています。2013年も欧州REACH規制対象物質の増加により、ガイドライン改訂を実施しています。



グリーン調達ガイドライン

● 独占禁止法・下請法順守への取り組み

当社グループは、CSR活動の一環として、独占禁止法および下請法の研修に力を入れています。毎年、新入社員研修をはじめとした階層別教育研修および新規入社者を対象とした研修のプログラムに盛り込み、実施しています。また、各支社および工場ならびに子会社の担当者に対し、下請法に関する実務面の説明会を実施しています。さらに、2013年度には消費税転嫁対策特別措置法の施行に伴い、その説明を含めた独占禁止法および下請法に関するeラーニングシステムによる研修を役員および従業員を対象として実施しました。これら研修・説明会を通じて、当社グループは法令順守の徹底を図っています。



独占禁止法・下請法の従業員研修

従業員とのつながり

ニチアスグループは、安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティの推進やワーク・ライフ・バランスを重視し、仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。



労働安全衛生

● 安全・衛生への取り組み

安全最優先の大原則のもと安全衛生活動基本方針に基づき、安全、衛生、健康に関する活動に取り組んでいます。当社グループの活動は多岐にわたるため、①グループの全従業員を対象にした活動、②製造工場、製造子会社といった生産部門を対象にした活動、③工事部門を対象にした活動に分けて、継続的な改善活動を推進しています。

● メンタルヘルス

メンタルヘルスの専門家である精神科医を産業医として迎え、心に変調をきたした従業員、悩みや心配ごとを抱える従業員を支援しています。2013年度は30回以上の面談を行いました。また新入社員や新任管理職などに対する社内集合研修では、必ずメンタルヘルス教育の時間を設けています。

ダイバーシティ

● 定年後再雇用制度

当社は定年退職者の再雇用に積極的に取り組んでいます。2013年4月1日より改正高年齢者雇用安定法が施行されましたが、当社は2001年4月から、定年の60歳を迎えた後も本人が希望すれば、原則として年金支給開始年齢（現在は65歳）まで再雇用される制度を導入しています。

定年退職者再雇用率

年度	2011	2012	2013
定年退職者	27	27	20
再雇用希望者	22	24	19
再雇用者	22	24	19
再雇用率	100%	100%	100%

ワーク・ライフ・バランス

● 仕事と出産の両立を支援

当社では、育児休業期間を無条件で1年6カ月まで、また、妊娠中の女性従業員についても本人の申し出で時差勤務などを認める「母性保護」を推進。従業員が安心して子育てに専念できる環境づくりに取り組んでいます。

働きがいのある職場づくり

● 社内表彰「ニチアススピリット賞」

企業理念などにのっとり行動した個人・グループを年に一度表彰しています。表彰を通じて従業員の自主性を尊重した、風通しのよい、働きがいのある職場づくりを推進しています。

● コミュニケーションの活性化を図るグループ報

グループ報「とんぼのわ」を年に4回発行しています。経営情報を従業員へ適切に伝えるとともに、海外までを含めた各拠点で活躍する従業員の声など、さまざまな情報を掲載し、経営層や従業員間のコミュニケーションの活性化を図っています。

● 時間単位の年次有給休暇

年次有給休暇は以前より半日の取得が可能でしたが、法改正に伴い2010年より年5日、40時間まで時間単位の取得も可能にしました。短時間での私用がある場合など、従業員は同制度を有効的に活用しています。

地域社会とのつながり

ニチアスグループは、国内外にある各拠点において、事業所がある地域社会とのコミュニケーションを大切に、地域で実施される社会貢献活動へ積極的に参加しています。

全国拠点の地域貢献活動

1 本社 周辺地域清掃美化活動

2013年6月27日の就業時間後、従業員84名が集まり本社周辺地域の清掃を実施しました。
2013年7月に東京都港区から中央区へ本社を移転しましたので、旧本社での最後の一斉清掃となりました。



旧本社ビル周辺の清掃活動の様子

5 若狭支店(美浜事務所) 地域の餅つき大会へ参加

2013年12月18日、関西電力さま主催による地元小学生を招待した地域餅つき大会に参加しました。ほとんどの生徒は臼と杵を使った餅つきは初めてで、餅のつき方を教えながら一緒に楽しみ、交流を深めました。



餅つき大会の様子

18 ニチアスセラテック 地域住民の方との定期協議会・工場見学会を開催

2013年11月27日、ニチアスセラテックは牟礼工場の定期協議会・工場見学会を開催しました。定期協議会では工場環境活動について取り組み状況を公開し、町役場の担当者や地域住民の方と環境保全についての意見交換を行っています。また、会議の前に工場見学会を開催し、現状の製造設備や環境設備を見てもらうことで理解を深めていただいています。



工場見学会

23 メタコート工業(岡山工場) 周辺企業交流会主催による防犯講習会を企画・開催

2014年2月13日、メタコート工業岡山工場は、「多様化する犯罪に対して企業として何ができるのか?」を考え周辺企業交流会の会長として、会員(19社、2団体)と工業団地企業連合会会員(16社)を取りまとめ、岡山北警察署による防犯講習会を企画・開催しました。講演会では、岡山北警察署から「企業管理職における防犯の心構え」についての講義を受けるなど、地域企業が一体となって防犯意識を高めました。



地元企業と合同で開催した防犯講習会

各事業所での地域貢献活動への取り組み

事業所	取り組み内容
1 本社	地域清掃活動へ参加(左記参照)
2 札幌支店	地域行事へ寄付(いわない怒涛まつり/地域花火大会) スポーツ行事へ寄付(全国大会出場社会人野球チーム/苫小牧市民ラグビー祭)
3 結城工場	下妻市民清掃デーへ参加 地域行事へ寄付(花と万人の会/下妻市花火大会/砂沼フレンドリーフェスティバル)
4 鶴見工場	鶴見川花火大会への協賛
5 若狭支店(美浜事務所)	地域美化活動へ参加(県道白木線清掃活動/三方五湖一斉清掃活動/クリーンアップふくいin美浜/クリーン・ザ・シーキャンペーン/三浜町の福祉サービス事業所清掃活動)、地域餅つき大会への参加(左記参照)
6 若狭支店(高浜事務所)	地域美化活動へ参加(高浜町クリーンキャンペーン/県道音海線清掃活動/目指せ世界一きれいな発電所/花いっぱい運動) 地域行事へ参加(高浜町秋の文化祭での舞台披露/関西電力主催による餅つき大会)
7 若狭支店(大飯事務所)	大飯発電所近隣の海水浴場および周辺の清掃活動へ参加
8 羽島工場	工場外清掃活動を実施、長良川へ稚魚の放流活動へ参加
9 浜松研究所	近隣小学校にニュース写真掲示板を寄贈
10 袋井工場	地域住民、自治体に対しての説明会を開催 袋井花火大会へ参加(運営費の寄付、当日の運営協力、翌日の清掃片付け) 袋井市ワンコインスクールプロジェクトへ寄付
11 王寺工場	地域美化活動へ参加(王寺町クリーンキャンペーン/大和川一斉清掃活動(P26参照)) 地域行事へ寄付(王寺町商工会ゆるキャラ「雪丸君」振興/地域防犯カメラ設置費用) 王寺町商工会イベントへ参加
12 郡山分工場	大和川一斉清掃活動へ参加(P26参照)、献血活動へ協力
13 九州支社	事務所設置の防犯カメラ動画を地元警察へ提供し捜査に協力
14 大分営業所	周辺地域清掃活動を実施
15 福島ニチアス	近隣神社例祭へ参加/寄付、近隣の遺跡管理(雑草木の伐採、草刈りなど)、遺跡発掘調査団協力
16 日本ロックウール	事務所花壇手入れによる美化活動を実施
17 大田化成	工場外周辺活動を実施
18 ニチアスセラテック	飯綱町一斉清掃活動へ参加、近隣の高等学校を対象にした工場見学会を実施 地域行事へ参加(ノーマイカー通勤ウィーク/地元商店会駐車場除雪活動)、牟礼定期協議会・工場見学会を開催(左記参照)
19 堺ニチアス	地域美化活動へ参加(大和川一斉清掃活動(P26参照)/三宝地区美化活動)、田守神社玉垣名入れ寄進
20 国分工業	大和川一斉清掃活動へ参加(P26参照)、町内秋祭りへ寄付
21 竜田工業	地域美化活動へ参加(工場外周辺清掃/大和川一斉清掃活動(P26参照))、竜田神社秋季大祭へ参加
22 メタコート工業(奈良工場)	大和川一斉清掃活動へ参加(P26参照)
23 メタコート工業(岡山工場)	防犯講習会を開催(左記参照)、地元夏祭りへ参加

● 子会社

海外拠点の地域貢献活動

マレーシアのニチアスFGSでの地域貢献活動

ニチアスFGS(NICHIAS FGS SDN.BHD.)では、環境に配慮した活動を積極的に推進しています。2013年12月、工場近郊のケダ州国定公園の緑地保全整備活動を行いました。また、2014年1月にはCO₂削減活動の一環として工場空地に苗木を植えました。これらの活動はマレーシアの新聞でも報道されました。また、建築用パネルを近郊の施設に寄付する活動も継続的に実施しています。2013年度は校庭整備に活用されたケダ州の学校から感謝状をいただきました。



校庭整備に活用されたパネル

地元紙で報道された植林活動

社会とのつながり

ニチアスグループは、社会への貢献および社会とのコミュニケーションづくりを意欲的に推進し、各種研究開発機関への支援をはじめとする多くの領域に貢献する活動を展開しています。

社会貢献活動

● 千葉大学大学院医学研究院への研究委託

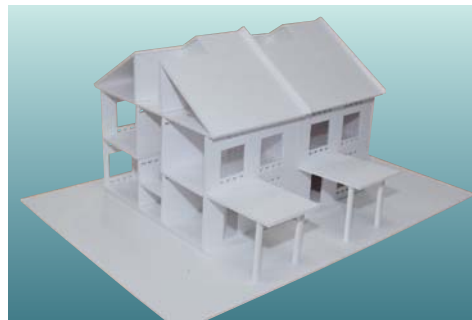
当社は2007年10月、千葉大学大学院医学研究院、医学部附属病院に「中皮腫に対する新規遺伝子医薬品の研究開発」のテーマで研究を委託しました。この研究は総額1億5,000万円をかけ、2015年3月に完了する予定となっています。2013年に新規遺伝子医薬品の開発が完了し、厚生労働省の承認を得ましたので、2014年3月より千葉大学大学院医学研究院において切除不能な胸部悪性中皮腫患者に対しての臨床試験の募集が開始されました。今後、治験に同意された患者に対しての臨床試験が開始され、新薬実用化への研究がさらに進められます。

● さまざまな学術研究に対する助成

日本の研究開発機関に貢献すべく、大学などへ学術研究に対する助成を行っています。助成先は、半導体関連、有機合成、セラミックス、分析・評価技術など最先端技術を中心に幅広い分野にわたっています。また、中には10年間にわたり助成をさせていただいている機関もあり、その総額は約1億円となっています。2013年度については、総額約1,000万円の助成をしています。今後とも日本の有望と思われる、分野、機関にできるだけ助成を行っていきたいと考えています。

● マレーシアにおける住宅断熱研究に関する 広島大学大学院・マレーシア工科大学への助成

当社はマレーシアに子会社があることが縁となり、2012年度から広島大学大学院とマレーシア工科大学が共同で進めているマレーシア住居の快適性と省エネルギーを両立するプロジェクトを支援しています。本研究の助成金額は総額2,400万円であり、現地ハウスの環境測定やアンケートによる現状把握、シミュレーションによる解析を行い、快適住宅の設計基準を作っています。今後は、マレーシア工科大学内に実験ハウスを建設し、実証試験を行い、快適住宅のガイドラインをマレーシア政府に提案する予定です。また、実験ハウスは、将来にわたり、研究、学生の教育・人材育成に役立つ予定です。



2015年に完成予定の2階建テラスハウスのモデル



寄贈予定のNICHIAS ECO-HOUSE看板

VOICE

助成を通して日本の技術力向上に貢献

当社はメーカーでありその基本となる基盤技術を育成、確立することは大変重要だと考えています。一方で日本の基盤となるような技術の研究を研究開発機関が行っていくことは、日本の重要な財産になり大変有意義なことと考えています。

当社は当社の事業領域や知見のある領域の研究テーマへの研究助成を行っています。微力ではございますが、今後とも、日本の技術力向上、知的財産強化に貢献できればと思います。



研究開発本部
企画調査課 課長 友末 信也

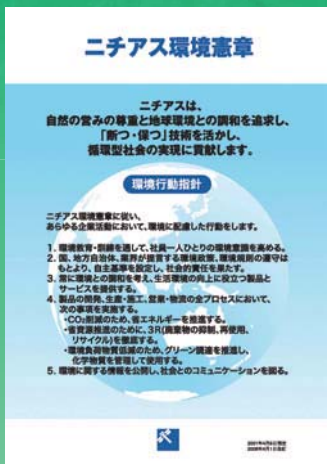
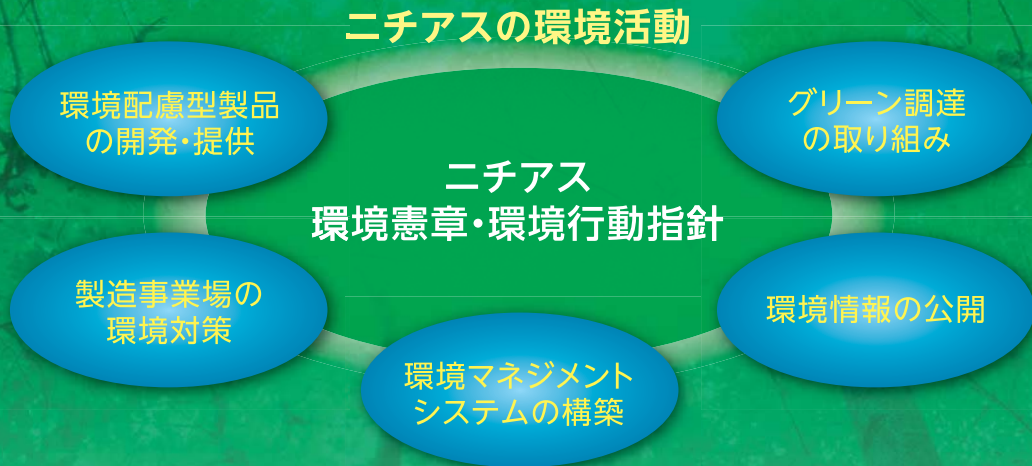
● 寄付・支援活動

当社は、日本赤十字社や各都道府県の共同募金会を経由した寄付・支援活動を行っています。2013年度はフィリピンへの台風救援金をはじめとする寄付を行いました。今後もこのような活動を継続していきます。

環境への取り組み

ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全などお客さまの「環境」に関するニーズに応え、お客さまの使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。

ニチアスグループは、つねに「環境」を意識して活動しています。



【ニチアス環境憲章】

ニチアスは、自然の営みの尊重と地球環境との調和を追求し、「断つ・保つ」技術を活かし、循環型社会の実現に貢献します。

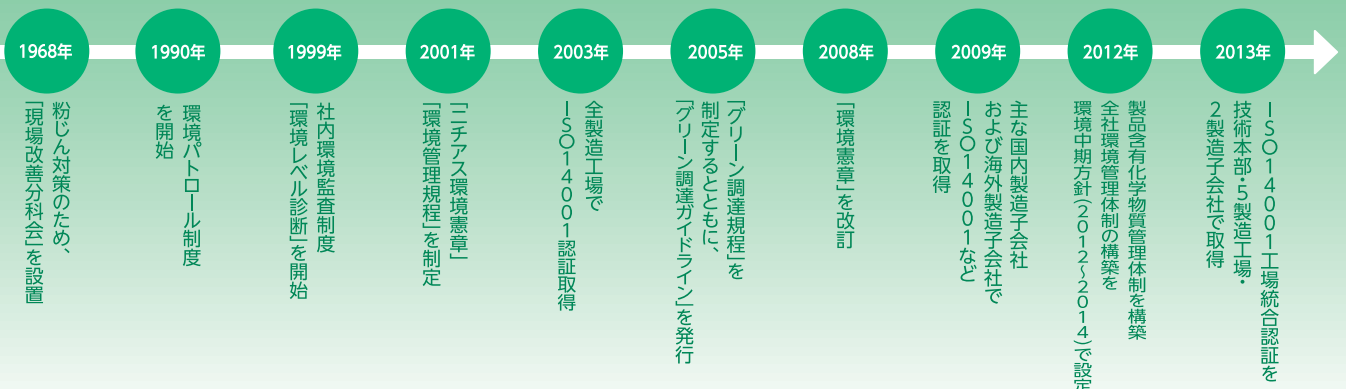
【環境行動指針】

ニチアス環境憲章に従い、あらゆる企業活動において、環境に配慮した行動をします。

1. 環境教育・訓練を通して、社員一人ひとりの環境意識を高める。
2. 国、地方自治体、業界が提言する環境政策、環境規則の遵守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たす。
3. 常に環境との調和を考え、生活環境の向上に役立つ製品とサービスを提供する。
4. 製品の開発、生産・施工、営業・物流の全プロセスにおいて、次の事項を実施する。
 - ・CO₂削減のため、省エネルギーを推進する。
 - ・省資源推進のために、3R(廃棄物の抑制、再使用、リサイクル)を徹底する。
 - ・環境負荷物質低減のため、グリーン調達を推進し、化学物質を管理して使用する。
5. 環境に関する情報を公開し、社会とのコミュニケーションを図る。

環境活動の歩み

当社グループでは、早期から環境パトロールやレベル診断など、独自の方法で環境問題へ取り組み、管理・対策などを実施し、環境負荷を低減してきました。これからも幅広い分野に目を向け、持続可能な社会の構築に貢献し続けます。



環境マネジメント

さまざまな環境課題に積極的に取り組むとともに、
環境経営の実現をめざし全社環境マネジメントシステムの構築を推進しています。

環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、環境中期方針(2012年度～2014年度)を策定しています。環境中期方針では「環境経営」「環境啓発」「コンプライアンス」「環境負荷削減」「環境コミュ

ニケーション」の5分野で課題を設定しています。本方針では、全社環境活動をより効果的に推進するため、「環境マネジメントシステムの構築」を最重要課題としています。

環境中期方針に基づく2013年の目標と実績

		環境中期目標	2013年度目標	2013年度実績	評価	2014年度目標
環境経営	環境管理体制の構築	全社環境マネジメントシステムの構築	ISO14001技術本部・工場間統合 全社統合体制・規程づくり	ISO14001技術本部・工場間統合 2013年12月取得済 環境管理基本規程策定	●	2013年度に確定した全社環境管理体制の維持推進 環境管理基本規程体系の確定
	従業員の環境意識向上	全従業員への定期環境教育の推進と維持	環境ボランティアの実施 eラーニング教材の実施 ニーズにあった部門別環境教育の維持推進 特定業務者への環境教育の実施	全従業員向けeラーニング教科書の作成 作業長教育の実施 部門別教材の作成 産業廃棄物に関連する教材資料作成	▲ ▲ ▲	全従業員への環境啓発活動の推進 eラーニングによる全社教育の実施 エココスト発行の継続
コンプライアンス	事業場のコンプライアンス	全事業場における環境法規の順守の徹底	2012年度に引き続き、人事異動、契約時などの変化点で法順守できる仕組みづくりを実施 支社/支店/営業所の2012年度指摘事項を是正するとともに、廃棄物担当者への教育を実施、環境法規順守確認	人事異動、契約時などの変化点で法順守を維持できる仕組み化 環境レベル診断を支社/支店/営業所へ実施。廃掃法・消防法関連を重点に確認。廃棄物置場の不備などを是正	▲ ●	全事業場における環境法規の順守徹底
	製品のコンプライアンス	製品環境法規の順守徹底 顧客グリーン調達への対応体制構築	製品含有物質管理体制の維持・運用 製品含有物質表に基づくラベル・SDSの改訂 グリーン調達対応体制の維持・支援 原料管理の徹底	製品含有物質管理体制の維持 製品含有物質表に基づくラベル・SDSの改訂を実施 原材料についてグリーン調達対応実施	● ●	製品環境法規の順守徹底 製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底 グリーン調達対応の継続
環境負荷削減	産業廃棄物削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比5%削減	製造事業場の2014年度産業廃棄物排出量生産高原単位を2011年度比5%削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2011年度比2%削減	▲	産業廃棄物排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比5%削減
	CO2削減省エネルギー	CO2排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比3%削減	製造事業場のCO2排出量生産高原単位を2011年度比2%削減	製造事業場のCO2排出量生産高原単位を2011年度比8%増加	×	CO2排出量生産高原単位を2011年度比3%削減
環境コミュニケーション	情報公開	情報公開の維持・推進	CSRレポートの発行	CSRレポートの発行	●	CSRレポートの発行継続
	地域と製造事業場の共生	再発苦情の撲滅	環境パトロールの有効活用 再発苦情撲滅のための方策づくり	マンネリ化防止のため、パトロール方法を変更新たに増加した指摘に対応	▲	再発苦情撲滅のための方策づくり

環境管理推進体制

環境経営への転換を目的として2011年度より全社環境管理推進体制の整備を進めています。環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置しました。同委員会のもとに「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としました。

2013年度は環境中期方針の目標である「全社環境マネジメントシステムの構築」達成のため「ISO14001工場統合認証」を技術本部、5製造工場、2製造子会社で取得しました。それ以外の製造子会社でも環境マネジメントシステムの認証を維持し、環境管理を推進しています。

環境管理推進体制図



ISO14001などマネジメントシステムの認証取得状況
<http://www.nichias.co.jp/environment/management/index.html>

環境監査体制

製造事業場では、①製造事業場内での内部監査、②本社環境部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。

2013年度はISO14001工場統合認証取得活動の中で事業場間相互内部監査を開始しました。なお、これらの監査の結果、敷地境界騒音の一部基準超過はあるものの重大な法令違反はありませんでした。

環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額^{注1}は273百万円(前年度比81百万円増)でグループ全体の設備投資額の3.4%に当たります。環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト^{注2}は479百万円(前年度比27百万円増)でした。これらのコストは、大気汚染、水質汚濁、悪臭などの公害防止、産業廃棄物処理、環境負荷監視などに伴うものでした。

注1：当社グループ全体を集計対象

注2：当社製造工場のみを集計対象(グループ全体の集計は検討中)

環境保全設備投資金額(当社グループ全体/2013年度) (単位:百万円)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	155
	地球環境保全コスト	52
	資源循環コスト	15
管理活動コスト		51
合計		273

環境保全コスト(当社製造工場/2013年度) (単位:百万円)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	228
	地球環境保全コスト	2
	資源循環コスト	165
管理活動コスト		84
合計		479

環境教育・啓発

● 環境教育活動

当社では昇格時に階層別教育を実施しており、そこで製品のライフサイクルにおける環境影響や化学物質規制、環境法規の動向などの環境コンプライアンスに重点をおいた内容をわかりやすく説明しています。2013年度は新入社員を対象とした環境教育に加え、社内昇格者を対象に環境教育を実施しました。

環境リスクマネジメント

● 製品含有化学物質管理への取り組み

製品の開発設計から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを進めています。

2013年度は2012年度から引き続き「製品含有化学物質の管理体制」の運用を進めてきました。従来から発行しておりましたSDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまへの提供資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みもできあがりました。今後は全製品の「製品含有物質表」を、2017年をめどに整備していきます。

● 環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。パトロールでは従業員が事業場の周囲を歩いて「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を事業場の特性に合わせて確認しています。毎回、新鮮な目でパトロールができるよう2013年度はグループ全体でのべ130名がパトロールに参加し、全体で450件の不具合が摘出され、新たな環境改善が進みました。

● 外部からの指摘

2013年度は、製造事業場から発生する臭気・排煙や騒音についてグループ全体で11件の指摘を受けました。本年度は指摘への調査・改善を行うとともに、過去に受けた指摘の改善を継続的に実施していきます。今後は、指摘内容の対応経過や改善策について、関係自治体などを通じての情報公開に努めていきます。

● 環境啓発活動

環境情報新聞「ニチアスエコPOST」(月刊)を発行し社内外の環境情報を全従業員に発信しています。2014年3月で通算40号となりました。また、毎年6月の環境月間には「環境川柳」を募集し優秀作品への表彰、ライトダウンキャンペーンへの参加などの活動を通じて、従業員一人ひとりが環境に対する意識を高めていくように進めています。

環境パフォーマンス

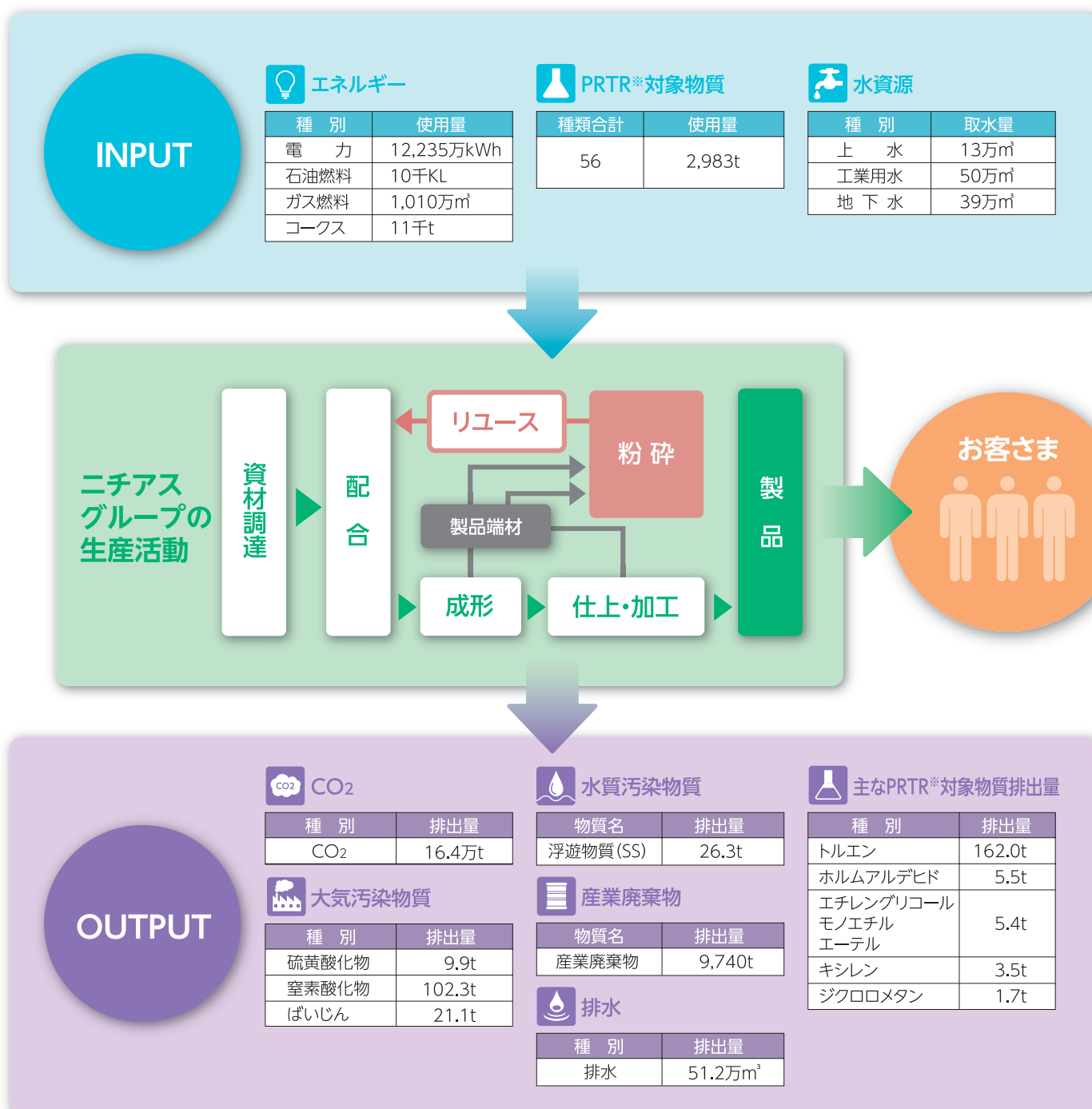
持続可能な社会の構築に向けて

環境負荷物質低減への取り組みを強化しています。

ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質と、排出するCO₂量や産業廃棄物量などを把握するとともに、それらの削減に向けた具体的

な目標を設定し、PDCAサイクルを回すことで環境負荷の低減に取り組んでいます。



※特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律

CO₂排出実績

当社グループは2014年度末に向け、CO₂排出量生産高原単位3%削減(2011年度比)を目標に活動しています。

2013年度は全体的にエネルギー使用量が増えCO₂排出量が前年度比約6,000t増加しました。排出量生産高原単位で比較すると前年度比では6%と減少していますが、2011年度からは8%増と目標値には達していません。各事業場では省エネ活動に積極的に取り組んでおり、設備投資では省エネ機器を積極的に採用し、送風機へのインバーター取り付けによる電力の削減や、新型ボイラーへ切り替えによる天然ガス使用量の削減改善などができています。また、主要製造事業場から担当者を集め定期的に省エネ分科会を開催し、各事業場の省エネ事例を共有し、自分達の工場に水平展開できる仕組みを構築しています。

今後も高効率な省エネ機器の導入やエネルギーロスを減らす改善活動をととしてCO₂削減の取り組みを進めていきます。

不要物・産業廃棄物排出実績

2013年度は前年度に比べ生産量が増加したため事業活動における不要物^{注1}の排出量は総量13,627tで前年度比888tの増加、また産業廃棄物の排出量は9,740tで前年度比1,107tの増加となりました。

排出量生産高原単位では前年度比3%の増加、基準年の2011年度比では2%削減となり目標達成までもう一步のところです。

なお、当社グループから排出される不要物から76%のものが再資源^{注2}として利用されています。

各拠点での不良低減活動、製造歩留まり改善、生産性向上などの活動を通じて確実に不要物・産業廃棄物を減量させていく取り組みを引き続き継続していきます。

注1：グループから排出される有価売却物を含む廃棄物

注2：最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価売却されたものを再資源化と定義

PRTR対象物質排出実績

事業活動におけるPRTR対象物質の使用量は2,983tで、前年度より392tの増加となりました。大気への排出量は前年度の173tから2013年度は8tの増加で抑えており、ほとんどが廃棄物中の溶剤の増加です。

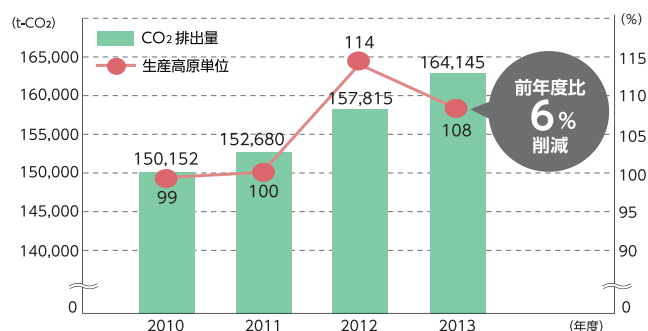
ただ、各生産拠点では少しでも排出量を減らすべく廃棄物中に含まれる溶剤を回収する設備の導入などの改善活動を進めており、廃棄物として排出される量は前年度の46tから8t削減されています。

CO₂排出抑制の取り組み目標

2014年度末までにCO₂排出量
生産高原単位
2011年度比3%削減

2013年度実績
2011年度比8%増加
(2012年度に比べ6%削減)

CO₂排出量および生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)

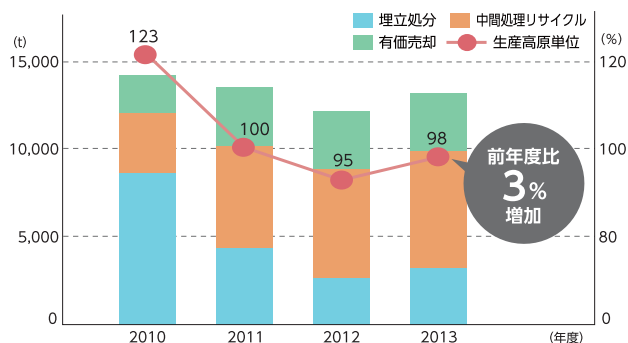


不要物・産業廃棄物削減の取り組み目標

2014年度末までに産業廃棄物排出量
生産高原単位
2011年度比5%削減

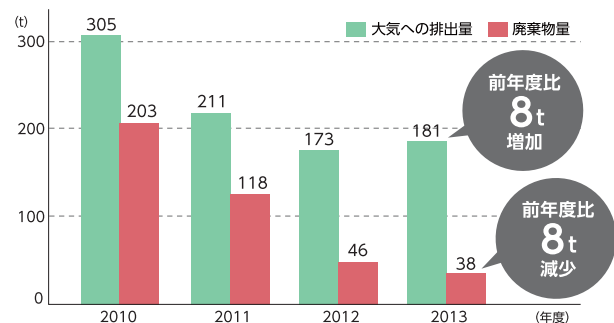
2013年度実績
2011年度比2%削減
(2012年度に比べ3%増加)

不要物排出量および産業廃棄物生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)



※生産高原単位の算出:2011年度(臨時廃棄物2,520tを除く)を基準年として算出

PRTR対象物質排出量・廃棄物量の推移(当社グループ製造事業場)



みんなで力を合わせて環境保全

～地域・地球環境と共存した生産活動のために～

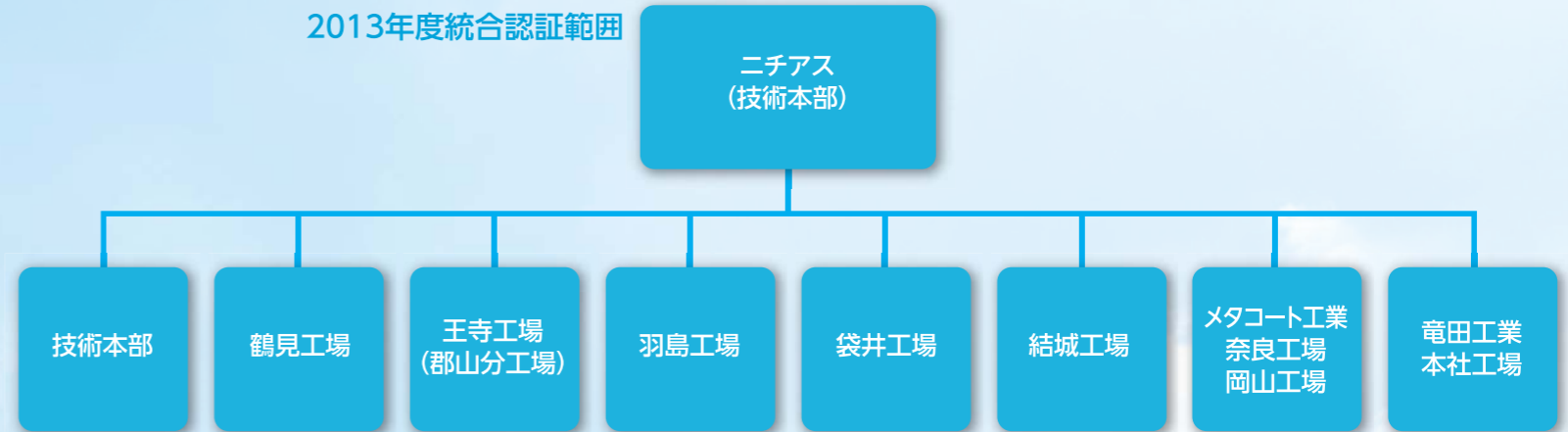


● ISO14001統合認証取得

ニチアスグループの環境活動を組織的かつ効率的に推進するため、自社工場および一部の製造子会社と環境統括部門である技術本部を加えた形でISO14001統合認証を2013年12月6日に取得しました。今後も国内の製造子会社を統合認証に加えていき、2017年度には全国内製造事業場でISO14001の統合認証取得を推進するとともに、製造部門以外も含む全社で環境活動を実施し、“環境に優しいニチアスグループ”を目指していきます。

ISO14001認証書

2013年度統合認証範囲



● 袋井工場の緊急時対応訓練

各製造事業場では、汚水の漏えいや油の流出など環境的なリスクを防止するため、年1回、環境に関わる緊急時対応訓練(効果確認などを含む)を実施しています。

袋井工場では2013年度、燃料タンクから油が漏れたことを想定した訓練を実施しました。具体的には、ガソリンタンクから油が漏れ、防油溝からオーバーフローした油を、オイルキャッチャーを用いて簡易的に設けた防油堤でせき止め、外部への流出を防止する訓練を実施しました。

また、訓練以外にも日常の点検や防油溝の清掃が大切な対応になります。

日々の点検や清掃と定期的な訓練を実施することで、緊急時にも的確な判断をし、環境汚染を未然に防ぎます。



緊急時対応訓練



防油溝および周辺の点検



燃料タンクの点検方法確認

● 大和川流域での清掃活動

奈良県から大阪湾までを流れる大和川。当社グループはこの大和川流域に多数の製造事業場を有しています。流域上流の郡山分工場から河口に位置する堺ニチアスまで工場付近の河川清掃を定期的実施しています。グループ一丸となって地域環境の保全に取り組んでいます。



大和川支流の竜田川周辺の清掃活動(竜田工業)



大和川周辺の清掃活動(国分工業)

ニチアス株式会社

〒104-8555 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号
TEL 03-4413-1194 (経営企画部 広報課)
<http://www.nichias.co.jp/>



表紙の写真

ニチアスは古くから日本を指すトンボをトレードマークとして使用してきました。

CSRレポートでは、トンボをテーマにした写真を当社グループの従業員から公募し、掲載しています。本年の応募者数は47名でした。表紙の写真は「自然との調和」をイメージしたトンボの写真として、見事優秀賞に輝いた作品です。

撮影者のコメント

関東地方の梅雨明け宣言が出た日のお昼頃。それまで厚い雲に覆われていた空がパッと青空になりました。久しぶりの太陽に誘われてカメラだけ持って出かけました。途中で社内のトンボの写真募集を思い出し、荒川土手の公園でようやく巡り合えました。都会の自然もなかなか素敵でしょ？

基幹産業事業本部 工事技術部 八木 衛

この印刷物
1冊あたり
CO₂ 313.1g



この印刷物は、日本水なし印刷協会、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト（自然エネルギー事業）によって削減された CO₂ 排出権を購入することで、印刷物制作において排出された CO₂ を相殺しています。



印刷版の作成時に有害な現象液を使わず、また印刷の際にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な水なし印刷を採用しています。



この印刷物は鉱物油を使用せずに VOC (揮発性有機化合物) を含まない 100% 植物油型インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



京都議定書の目標である「温室効果ガス 6% 削減」のためには、国内森林で「3.9% 吸収」の実現が必要です。国産材を積極的に使うことは CO₂ を吸収する森の育成に貢献できます。この冊子の制作には、国産材が製紙原料として活用されています。



LC-CO₂ に関しては、左記 QR コードからご覧いただけます。

この印刷物に記載されている情報の全部または一部について、当社に無断で複製、複製、模倣、流用、転載すること、および磁気媒体または光記録媒体に入力することは固くお断りします。